

カトリック 仙台教区報

2002年12月20日 No.149
 発行
カトリック仙台司教区
 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
 Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
 発行責任者 本部事務局
 広報委員会
 URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

歴史の上にある神様 《クリスマスに寄せて》

仙台教区 司教 溝部 脩

「そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリウスかシリア総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおの

の自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、「ダヤのベツレム」というダビデの町へ上って行った」

(ルカ2:15)。



ローマの支配者の意向にそって彼らは旅をする、多くの人の一人に過ぎません。ところが、神様はこの人たちを使って新しい王国をつくるのです。飼葉桶に休む幼子は、神様のやり方を反映しているのです。

ここに登場する全ての人は、単純で貧しい人たちです。いばらな、自分だけを主張しない人たちです。神様はこれらの人を通してこの世界の歴史に介入してくださるので

す。歴史を動かさずと信じた皇帝も、ユダヤの王も、律法学者もその実は単なる神様の手の中にある道具に過ぎなかつたのです。神様はこれらの人々を使

つて、幼子イエスの誕生を準備します。歴史は貧しく、謙虚な人々によって動かされることを鮮明に打ち出すためでした。

「幼子は私たちの間に生まれた」
 クリスマスは自分の力におごる人間に向けての強烈なメッセージを送っているのです。

イラスト 東仙台教会 佐藤勇次

アウグストゥスは当時のローマの支配者です。彼は税を徴収し、更に軍役を課すために自分の属国の人数を調査し、登録させます。彼は自分たちこそ、この世界の主人と思ひ込んでいます。そして全ては自分の思い通りになると信じ込んでいます。まさかこの帝国が揺らぐなどとは、夢にも考えていません。その下に

学者がいました。自分こそはこの世界を支配する権力者であると信じていました。そこに弱々しい、他人の助けを借りなければ立つことさへできない幼子が生まれます。両親は彼のために宿さへみつけることができな

残滴

これも福音宣教の問題だが、幼児洗礼者の信仰教育が大きな関心事になっている。成人洗礼者は増えなくても幼児洗礼者に

は自然増があり、教会の重要部分を占めている。洗礼を受ければ信者だが、幼児洗礼は事前教育ができず、初聖体準備の教育ぐらいいでは、信仰生活のための意識も知識も十分ではない。そこで幼児洗礼者のための十分な教理教育が望まれる。幼児洗礼者だけとは限らない、という声も聞こえてきたが、

要するに福音宣教は外部への働きだけに限らず、内部へも向ける必要があるということ。極めて当たり前とわかっていい。勿論、教会が全く何もしなかつたわけではない。しかしどれだけ実績が上がっているかどうかは、反省の必要がありそう。お座なりの日曜学校程度ではダメなのである。これまで最初から不可能と想っていた、中高生のへの信仰教育がなぜ出来ないのだろう。教会と、信者家庭との協力でぜひ実現してほしい。いくら高齢化社会といってもお年寄りだけの教会では何とも淋しい。そして、今もつとも問題となつて

いる青少年の在り方、教会はいちばん優れた教えと解決法をもっているのだから。(平)

司教館上棟式を迎える

神様の活動拠点として...

十二月七日(土)午後三時から司教館の上棟式が行なわれた。

式は溝部脩司教の司式でみことばの祭儀形式で行なわれ、月設計事務所の高田洋文氏、施工業者株たくみ仙台営業所の大類好一氏はじめ

工事関係者約二十名、司教館建築委員会のメンバー十名ほどが参列した。

式の中で溝部司教は「この建物は、ただ人間の生活や活動の便利さの為に建てられるのではなく、神様の活動の拠点となる場であることを基本として



考えたい。神様の思い、活動の場であることを土台に据えて、そこに我々の生活や、活動が展開する場である。この建物を作る人も、使う人もこのことに思いを致して欲しい」と話された。建物の中央に飾られる十字架を祝別し、続いてそれぞれの部屋を祝別してまわった。月設計の高田洋文氏は、「司教様のおことばを心に刻み、誠心誠意良い仕事をした」と挨拶。工事の安全と無事を願って皆で乾杯した。最後に全員、三本締めで式を締めくくった。

「ふるさとのクリスマス
人々のクリスマス
心に深く染み通り

あなたのやさしさ

あなたの神秘は
なんと愛しく。」

(あるシャンソンの歌詞より)

これはもう四十年前のことでしょうか。田舎の小僧だった私はすばらしいクリスマス

を体験したことがありません。家から五キロ以上

離れていた町の教会のクリスマス

の真夜中にいったこと。もちろんその時代に自動車はなくて、雪

の上を馬がひく「そり」しかありません。あの夜は、すばらしい満月の夜でした。わたし

と六人兄弟が「そり」に乗って、ガチャガチャと馬の横につけ

た小さな鈴の音を聞きながら教会に向かって出発しました。

ところが、ちょうどその時、低い



い、白い雲が北東の空から流れて来て、月がちょっぴり霞んで来ました。そのうち、風のない夜の空から小雪が降って来た

ふるさとのクリスマス

ジャン・シャル・ロワゼール神父

一本杉教会編『みちしるべ』より

ではありませんか。まったくクリスマス・カードの絵のような夜でした。その時、兄弟たちが感激して、遠くまで響く大きな声でクリスマスの歌を合唱し始めました、町に着くまでずっと休むことなく……。

イエスさまがベツレヘムでお生まれになった夜は、こんなロマンチックな夜ではなかったのでしょうか。貧しくて、何も無いところでした。しかし、

この世の歴史において、どんな生活状況の中にあっても、どんな人種であっても、どんな年齢であつても、キリストのご誕生によつて、私達は一つになり、兄弟になったのではないのでしょうか。へりくだつて、まったく私達とともに、私達の内にいる神、私達のためにそのいのちを与える神、その永遠のしあわせに私達を招くために来られた神は、この馬小屋の赤ん坊で

した。「神は人となつた」このできごとの喜びは、世界のどんな人にとつてもふるさとであり、どんな人の心にもいつまでも懐かしく思い起こされます。

ロワゼール神父

一九八八年・一九九七年まで、一本杉教会主任司祭・現在ケベック外国宣教会総長議員(カナダ・モントリオール在住)



二本松キリシタン殉教祭

二本松教会主催による、第十
二回二本松キリシタン殉教祭
が、十一月二十三日(土)、殉
教地阿武隈川河畔で執り行わ
れた。

ミサは仙台教区長溝部司教
様主式。松木町教会イエジ・ヴ
イドムスキ神父、東京から「カ
トリック生活」編集長松尾眞神



父(サレジオ会)も出席され、
ミサが捧げられた。

当日は晴天に恵まれ、東京、
仙台、福島県内から、約六十名
が参加した。司教様は、「殉教
はインスピレーションで出来
るもではない。彼らの厚き信仰
心を見つめることが大切...」
と、述べられ、それぞれの思い

を胸に十四名の殉教者に祈り
を捧げた。

司教様は、主催された二本松
教会に対し「神父不在の中、信
徒一人一人が地道な努力を重
ね、毎年殉教祭を続けている。
改めて感謝したい」と、述べら
れた。信徒会長より殉教碑建立

の計画があり、目下用地を考慮
中とのお話があった。(現在の
地は水害の恐れがある)。次回
から新しい殉教碑の前でミサ
が捧げられるかもしれない。

なおミサに先立ち高木一雄
先生の「日本で活躍したドミニ
コ会士たち」という題で講演が
あった。

二本松領内は、一六二七年こ
ろジョアン町田宗加などの活
躍もあり、比較的平穩。

一六二三年三代將軍家光就
任。(二七年)会津藩主として
加藤嘉明が入る。その頃から幕
府は、キリシタン取り締まりを
強める。

(一六三二年)転ばない男女
十四人が、阿武隈川畔の供中河
原で処刑された。

溝部司教霊名のお祝い

十二月二日(月)元寺小路教
会小聖堂に、仙台教区司祭団の
聖歌が響きました。司教様(フ

ランシスコ・ザビエル) 霊名を



司教様の霊名の祝日ミサに集まった
仙台教区の神父様方

祝うミサが執り行われました。
(司祭評議会に合わせて一日
繰り上げて行われた。)

いつもは謹厳実直な司教様
も晴れやかな笑顔。最年長の深
沢神父様をはじめ教区司祭三
十余名の方々から祝福を受け
られました。ミサは司教様、鷹
嘴神父様、ツィゲル神父様の共
同司式で行われ、ツィゲル神父
様は説教でイエズス会創立時
のお話をなされました。「宣教
師たちは靈魂を救うため全世
界に行つて宣教をした。現代社
会は神に感謝する人、賛美する
人、神を礼拝する人を増やすこ
とが大事な宣教ではないか...」
とお話されました。

ミサ中に、正午のアンジェラ

スの鐘が鳴り響き祝福に満た
されたひと時でした。最後にザ
ビエル賛歌「波風さかまく」が
歌われミサを終えました。

青年達とも霊名のお祝い

また、同日、午後七時、元寺
小路教会小聖堂で、市内はもち
ろん遠くは古川、石巻から集ま
ったおよそ三十名ほどの青年
たちと共に司教霊名のお祝い
ミサが捧げられた。

ミサは、入祭の歌「わが日の
もとに」で始まり、福音朗読後、
司教様より三つの課題をいた
だき、五つのグループに分かれ
て分かち合いがあり、参加者は
多くの気付きを体験した。

その後、全員で祭壇を囲み、
手をつなぎ「主の祈り」を歌い、
また互いに固い握手を交わし



て「主の平和」の挨拶をした。周
囲を見渡すと喜びいっぱい顔、
顔、顔、顔。
最後に青年達から司教様へ
の贈り物、この日のために作っ
た歌「ビシヨップみぞべ」を声
高らかに歌いミサは終わった。
ミサ後、司教様手作りのアイ
リッシュコーヒーで乾杯。おい
しい料理と楽しい会話でまた
たく間に時間は過ぎていった。
今回も皆で助け合つて、とても
素晴らしい時間を共に過すこ
とができたと思つた。

聖フランシスコ・ザビエルは、
私達に「自分の人生を何に賭け
ていくのか」と問いかけている。
このミサを通して、皆が自分の
人生を見つめ、選び、力強く進
んでいく力を得たことだろう。

青森 本町教会

現・聖堂建設五十周年

今から一〇六年前、パリ外国宣教会は青森市に教会堂を建てた。しかし、十四年後青森市の大火で聖堂は焼失。三年後、立派に再建された聖堂は、今度は「太平洋戦争」によってたまたも焼失。戦後となり、ケベック外国宣教会によって建設されたのが今の聖堂で、一九五二年十二月十五日、献堂式が行われた。あれから五十年・・・確かに、聖堂は物でしかないが、この集える場所があったからこそ、互いに励まし合い、祈り合い、主の道を歩み続ける力、勇気と喜びが与えられ、そこから神への賛美と感謝がわき上がった。聖堂は大きな恵みの場なのだ。

十二月一日(日)、私たちは、溝部司教様に司式をしていただき、一六〇名の信徒が声高らかに感謝のミサを捧げた。一〇〇年前からの伝道者達に思いをこめて。

私たちは、先人達の汗と労苦によって脈々と伝えられてきたこのよるこびを、更に豊かなものにして伝えねば・・・と改めて思わされた。



神父様の懐かしい姿や当時の教会の有様が映し出されると、大きな歓声があがった。本当に恵み多い一日だった。(新松)

岩手 大船渡教会

当教会信徒、山浦玄嗣さんの三十年来の夢であった地元言葉「ケセン語」で聖書を著したいという願いが「ケセン語訳新約聖書・マタイによる福音書」の出版というかたちでこの度実現した。溝部司教様はこの仕事を「キリスト教の土着化への実践的活動」と評価して下さい、出版記念ミサを申し出て下さった。

歴史的ともいえるこの御ミサは、仙台教区長溝部司教様・カトリック新聞編集長赤波江神父様。当教会主任司祭横島神父様の司式のもと十二月八日(日)の午前十時から海の星幼稚

園のステラマリスホールで行われた。ケセン語による福音朗読そしてケセン語による典礼聖歌と、ほとんどの典礼をケセン語で行い、司教様もにわか仕込みのケセン語でお祈りとなえ、われわれ気仙衆を大いに喜ばせてくださった。『借りてきた貸衣装の燕尾服を脱ぎ捨てて、普段着の「どてら」を着たような」雰囲気、とてもくつろいだ御ミサ。標準語を話していたイエスさまがケセン語を話し始めたとき、なにかイエスさまと私たちの距離がぐんと近づいた様な気持ちになり、「気仙の人達に、気仙の言葉でイエスさまを語りたい」という山浦さんの気持ちがよく分かった。(熊谷)

宮城 古川教会

十一月十七日(日)溝部司教様をお迎えし、三名の方々に堅信を授けて頂いた。佐藤司教様突然の御帰天で、堅信式は延期



になるのではと思われたが、ご多用の中お運びくださり、十四年ぶりの公式訪問に嬉しい一日となった。司教様は、数少ない青年姉妹に目を留められ、特別にお話の時間を作ってくださり、教会で出会うことの少ない青年姉妹達にとつて連帯感が芽生える好機となった。

当教会は昭和三十一年仮教会発足、昭和三十八年現在地に移転、第二バチカン公会議の新典礼の精神を先取りした小林司教様のお考えで、仙台教区第一号、対面式祭壇の新聖堂として誕生した。

信徒は古川市と近郊の六郡部に散在し、且つ高齢者が多く、教会活動が難しい状況にある。主任司祭の川井啓神父様は今年喜寿を迎えられたが、毎年敬老の日には七十歳以上の方々に塗油の式を行い、力強く励ましてくださっている。

昨今は川井神父様の声も小さく感じる信徒が増え大声で分かち合いをしている。(渡辺)

福島 小名浜教会

東北南端に位置する「いわき市、小名浜教会」は、一九五〇年(昭和二五)十二月ダビオ神父(ドミニコ会)横尾伝道師、三浦としえ先生が、大河原教会より着任され、借家住まいで、小名浜、湯本、勿来地区の宣教

を始められた。翌年、現在地に、千二百三十坪の土地を購入(坪千五百円)仮聖堂と、幼稚園の建設準備に入った。

それから一九六五年まで、十五年間に小名浜教会、白百合幼稚園、湯本教会、海の家、勿来教会、勿来幼稚園、小名浜白菊幼稚園を建設され、休む暇もなく福音宣教を続けられ、特に終戦直後で生活の苦しい人々のためアメリカ本国の信者団体から、大量の衣類、粉ミルクを取り寄せた。(ララ物資)

しかし、一九六七年六月、五十六歳の若さで(心筋梗塞)帰天。一九七三年、ラポルト神父着任。一九七五年、同神父帰天。同月、モレン神父郡山教会より着任、現在に至る。(勿来教会、兼任)(遠藤)

1956年5月 聖堂聖別式



「母語になったイエス様のメッセージ」

北仙台教会 芳賀隆太郎

十二月八日(日)カトリック大船渡教会で「ケセン語訳新約聖書・マタイによる福音」出版記念ミサに与った。

ミサがあるというお話を聞いた時、ケセン語とは何だろう？日本語じゃないの？軽く調べてみた。

<http://www.sendai.catholic.jp/info/ratio.htm>

岩手県気仙地方の言葉であるケセン語の研究から始まり三十年近くが経ち山浦先生の



情熱、結晶が具現化する喜びが、あわれみの賛歌が始まり声高らかにのだと解った。しかもなまなまなる。もう気兼ねするのバカのような小さな地域の恐れをしましすく吹っ切れてしまった。山めにここまでは、漁先もよめる福音の朗読は囲炉裏端を囲みミと、目的がまだ理解を食心ながら聞く昔話のような、そんな感

仙台から来た事実は、漁先もよめる。そのまま温かい時間は流れ、ズ方々に告げるとして、も暖かを歌い、ズーズー弁で祈り、ズーズー迎えてくれた。渡さぬた式次第とひとつになった。

には見た事のない文字(ひらがな？記号?)で聖歌・お祈り。福音が書かれてある。ミサが始まる少し前から山浦先生によるケセン語のレクチャーがあった。というか、説明してくれているその話し方がすでにワイルドなズーズー弁・・・張り

のある声で堂々となまっていた

温かい時間が流れるミサに与ることができた。

そして祝賀会で大船渡教会の横島神父・山浦先生・溝部司教・出版社の熊谷さんのお話を聞いて、その日が新しいムーブメントとなる挑戦の足跡であることが解った。

今回のミサやケセン語訳の福音書制作は、標準として広められていた新共同訳聖書の活字「目」から得るメッセージにとらわれる事なく、この気仙地方の方々の心により深くイエス様の言葉をしみ込ませるか(ネイティブで聞く事ができるか)母語「耳」から得るメッセージということへの試みの結果です。しかしこの挑戦は気仙地方の人々だけの問題ではありません。ほんのわずかな一握りの人々の心、たった一人の心をも大切にし疎かにしないイエス様の温かい愛情を伝えるための努力の結果です。

「おらぼの言葉でイエス様の教えを命の器にしてーもんだ。ガギのころからズーっと思っただ。」と山浦先生は笑顔でおっしゃっていました。先生は先生の成し

ケセン語訳マタイ福音書
<http://www.epjx.co.jp/kesen/gobai/>



ごミサはほとんどがケセン語で行なわれたが、意外と？スムーズだった。

ケセン語訳聖書『マタイによる福音書』

山浦玄嗣著

CDも付いていてケセン語聖書の持つ温かさがどなたでも味わうことが出来ます。みなさんも是非読んでみて下さい。そして、自分たちの言葉で聖書を味わってみてはいかがですか。

続いて『マルコ』『ルカ』『ヨハネ』と出版が続きます。

(ケセン語訳聖書のお問い合わせはイー・ピックス/ (有)大船渡印刷までどうぞ。電話 0192-26-3334)

山浦さんの出演番組のご案内

今年7月7日と14日に放送された『こころの時代/ケセン語で読む聖書』が再放送されます。

また、新春4日にはNHK ラジオ『すてきなあなた』に生出演。山根アナウンサーとの1時間半の対談番組が放送されます。

『こころの時代/ケセン語で読む聖書』再放送
NHK教育テレビ

2003年1月3日(金) 午前5時30分~6時30分

『すてきなあなた』...NHK ラジオ第1

2003年1月4日(土)午後1時05分~2時30分

さよなら「オタワ修道院」

仙台市宮城野区光ヶ丘に建つ七十余年の歴史を持つオタワ修道院（ノエラ・ルナウ院長）が改築されることになり十二月七日（土）最後の早朝ミサが行われた。

ミサは深沢、鷹鷲両神父様の共同司式により、修道者、一般信徒の多数が参加。深沢神父様は説教の中で「皆さんもこの聖堂に思い出がたくさんあることでしょう。お祈りを通じて召し出しもあり、皆さんも数々のお恵みを頂いたことと思いま



す。共に感謝をしましょう」と祈りを捧げられた。

樹々に囲まれたこの修道院は、一九二八年ドミニコ会によって建立。一九五四年ころ現

私の気分転換

大船渡教会 山浦玄嗣
私の気分転換は聖書を読むことだ。不遜なことだが、信

仰によって読むものではない。あら探しをするために読む。

イエス様のこの言葉はちょっとおかしくないか。矛盾してはいないか。実行不可能な要求ではないか。どうしてペトロは叱られたのだ。マリア様はどうしてこんなことを言ったのだ。

その気になるといくらでも訳の分からぬことが読めてくる。その謎解きをするのが面白い。いろんな本を読んだり、あだこつだと考えて、自分なりに謎が解けると、爽快な気分になる。イエス様の気持ちがあつきりわかった気持ちになって、跳び上がるほど嬉しくなったりする。人にも伝えたくなくなる。この程出版した「ケセン語訳新約聖書」は、実はそんな気晴らしのいたずらからエネルギーを得ているのだ。



タワ愛徳修道女会が入る。

スベルマン病院のわきの坂を登りつめると正面に見えてくる異国風の建物は信者さんや、地域住民にも親しまれた。来年一月から解体工事が始まり、平成十五年十二月には地下一階、地上二階建ての鉄筋コンクリート造りの新しい修道院が姿をあらわす。

活動紹介

「ホスピス設置を願う会」

本会の活動は、お陰様で今年で十年目に入りました。

スベルマン病院の理事会では、ホスピス設置が決定される



“ガンバレ！ホスピス2002”

までは、街頭でのチラシ配りや写真展、講演会、映画会等当時は耳新しかった「ホスピス」を一般の方々にアピールすることを目指した。建設が始まって

からは、仙台ダルクの方々の応援を得ての半年間に亘る街頭募金、また、ステンドグラスやベッドカバー作りにも挑戦してきました。そしてホスピスが開設されてからは、年一回、硬軟取り混ぜた内容の催事「ガンバレホスピス」を聞いています。二年前からは月一回、癌患者さん同士の分かち合いも始めました。

会員には、教会とは無縁の方が多いので、神様とかイエス様とかいった言葉を使わずに、人を慈しむことや、命の重さを伝えていきたいと思っております。七月現在の会員数は四四七名です。（小野）

修道院紹介

聖ウルスラ会 木ノ下修道院

近くに由緒ある陸奥国分寺がある若林区木ノ下にある本修道院は幼稚園と小学校をその使徒職としており、一日中子ども達の元気な声に励まされながらこの子たちに幸多かれと日々祈りを捧げている。

カナダから本会のシスター三名が初来日したのが一九三六年、その四年後に本会日本最

初の修道院が、この地に創設された。

当時は周囲に畑も多く、新築の赤い屋根の洋館は人々の関心を集め、宗教やピアノのレッスンに集まる子ども達も増えてきました。しかし、太平洋戦争が始まり、カナダ人シスターが抑留されるなど苦難の時代を過しました。戦後、多くの神父様方や信徒の方々の協力で、家庭学校（後閉校）、幼稚園、小学校と順次創立され、以来教育を通してキリストの愛の種を蒔き続ける事が出来ることを感謝しております。

文芸

キラカイル。

ミチガメトナリアン

トナリ。

ヨニキタレト

カミワレラレ

ニチヨウ。ハレタルソラニオル

ガンノ。サンビノ シラベ ナガレ

タルケリ。

イシクラ サチコ

俳句

主はすべてお見通しなり

冬木立

茸飯里の言葉に触れながら

風道の展けし丘や花芒

朝露の花の光へ花袂

佐々木由岐子